

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○ 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの一つとなった、グループホームの役割を確認し、理念の中の『共に暮らす幸せ』を、地域と共にの意味も含んで、目指している。	○ より「地域」を意識し、「地域」での役割を考えていきたい。
2	○ 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事務室内に掲示している。また、常に、念頭において、介護に臨むように心がけている。課題が生じたとき、判断に迷うときには、判断の基準を、理念に置いて検討を行っている。また、管理者から、「理念」について、年度始めに研修を受けている。	○ 職員間で、地域密着型サ - ビスの意義と、独自の理念を、確認しながら実践につなげていきたい。
3	○ 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	玄関に掲示し、訪れた方々がいつでも、見ることが出来るようにしている。家族会においても、考えを伝えている。また運営推進委員の方には、会議の冒頭でお話をして理解を得ると共に、地域への橋渡しをお願いしている。地域向けの介護教室や、実習生受け入れの際にも、できる限り触れるように心がけている。また、パンフレットにも明記し、入居希望者の面談時等に、ホームをご理解を頂く資料にしている。	○ 理解されるよう、努力していきたい。
2. 地域との支えあい			
4	○ 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣の小学生たちとの、交流会を楽しんでいる。散歩の際に、畑仕事をしている方や、犬の散歩をしている方と、挨拶を交わしている。運営推進会議の委員の方に、「気軽に寄れる所」ということを、会議の際に伝え、訪問をいただくようお誘いした。	○ 顔見知りから、なじみの関係になれるよう努めていきたい。
5	○ 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元の保育園の、運動会を見学することはあるが、会合や行事に積極的に参加するという、深い関係性はまだ築けていない。	○ 地域の一員として、地域活動に参加する機会を、増やしていくとともに、地域での役割を、果たしていけるようにしたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	昨年からショートステイを行い、地域からの利用を受け入れている。また、実習生や交流学習の受け入れや、認知症介護教室の講師などを積極的に行っている。通所開設に向けて、自治体と検討をしている。	○	認知症対応型通所介護(共用型)の実施に向け、具体化していく。
3. 理念を实践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を開始する前に、資料を基に、評価の意義を再確認する機会を設け、職員が関わるようにした。外部評価の結果は、改善に向け検討を重ね、実践につながるよう努めている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	評価結果から指摘された課題について、委員の方に協力を求めたり、活動報告では、率直な意見を頂いたり、双方向的な話し合いの場となっており、また、活動を理解していただき、良い機会になっている。	○	意見を、今後の質の向上に生かしていきたい。運営推進委員の方々から、評価していただく機会を設けていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎月、お便りの「ふれあい通信」を、複数部署に送っている。また、管理者が市役所に出向き、通所開所に向けて、話し合いの機会をもっている。	○	質の向上に関して、連携していける関係づくりを、積極的に行いたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者や一部の職員は、外部の研修を受けている。現在、両事業・制度共、利用している利用者はいないが、利用の可能性があれば、随時、活用できるよう支援していく。	○	勉強会のテーマとして、研修計画に加えていく。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部の研修会などに参加したり、勉強会で学んでいる。『自分がされて嫌なことは、虐待の可能性があると』という考えのもと、虐待の防止に努めている。	○	勉強会のテーマとして、研修計画に加えていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○ 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入院時のことや終末期について等、家族の不安や質問には、丁寧に答えている。契約・解約時には、わかりやすい言葉に置き換え、十分な説明をし、納得のうえ手続きを進めている。その際には、本人に関わる、複数の家族の同席を求め、共通の理解を頂くようにしている。		
13	○ 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常生活のなかで、利用者が発する言葉や態度、表情等を大切に受け止めている。職員は、その情報を共有し改善に向け、その都度、カンファレンスを行っている。管理者や職員ならびに外部者に、意見等を表せる、改まった機会は特に設けていない。	○	職員には、表立って苦情等を言う、利用者が少ないので、運営推進委員の方々の協力を得て、利用者が、思いを表せる機会を増やしていきたい。
14	○ 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回発行するお便り、「ふれあい通信」を送付している。写真を多く取り入れ、行事や日常の様子を紹介している。また、家族への連絡事項や、新しく入居した利用者や配属した職員の紹介もしている。金銭管理は、法人の管理規定に基づき、四半期に一度、出納簿を送付している。健康状態に変化がある時は、その都度、電話で状況を報告している。家族が、面会に来た際には、近況の報告と、意見交換の機会としている。		
15	○ 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入所契約時に相談・苦情受付窓口(者)と外部機関を文書に明記し、説明している。また、玄関に「ご意見箱」を設置し、匿名で苦情等を用紙に記入できるようになっている。家族会は、家族が、管理者や職員への意見等を表せる場となっている。	○	小さなことでも、気軽に話して頂ける信頼関係を、家族と築いていく努力を、今後も続けていきたい。
16	○ 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	主に、毎月開催するスタッフ会議で、運営に関しての方針等について、職員に説明を行うと共に、職員の意見を聞き、皆の総意を基本として決定している。管理者や運営者の意見を押し付けることなく、一人ひとりが考える、運営を目指している。	○	個別面談を定期的に、実施するように努めている。個々の職員の考えを、個別に把握する機会として、また、皆で同じ目的で仕事ができるように、今後も実施していきたい。不満や苦情を解消して、より働きやすい、職場を実現していきたい。

グリーンクリスタル クリスタルTWO

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	ご利用者の状態や、突発的な状況の変化に合わせて勤務時間の変更等を行っている。その必要性を職員が理解し、協力体制がとられている。	○	きめ細かな、勤務対応を続けていきたい。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人全体での人事異動や職員採用があり、事業所単位で成し得るには制約はあるが、異動については、必要以外に極力行わない方向で調整が図られている。管理者が、日頃の不満や悩みの相談に乗る等、離職防止に努めており、新人職員が慣れるまで、他の職員が同じ勤務帯で行動し、きめ細かいフォローを行い、利用者に与えるダメージを最小限に抑えている。	○	職員が、長く継続勤務できるよう、管理者による個別相談の場を設ける等の、仕組みを作っていきたい。
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が、外部研修に参加できるよう、勤務シフトを配慮している。受講した研修の報告は、報告書を作成するとともに、勉強会で他の職員に伝達し共有している。また、月に1回の勉強会や、自施設内で実習を行うなどして、日常的に学ぶことを念頭においている。	○	計画的に研修や勉強会を、組み入れていきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣地域の同業者間の、ネットワークが出来上がり、会合を重ね、情報交換や勉強会の場となっている。他のグループホームの職員が見学に訪れ、評価され、問題点等を指摘されたことは、良い刺激となっている。	○	ネットワークを密にし、内容をより高め、相互評価の実施につなげていきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	月数回、日中の時間帯に、施設内で足心療法(マッサージ)の利用ができる。年数回行われる宴会は、職員間の親睦を深め、ストレスの発散の場になっている。互助会主催の催しへの、参加の斡旋もある。管理者が常に、職員の相談を受け付け、問題解決を図っている。日々の業務においては、なかなか休み時間が取れず、落ち着いて休める場所がないという問題点がある。	○	職員が、長く継続勤務できるよう、管理者による個別相談の場を設ける等、仕組みを作っていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	○ 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	独自に職員の自己評価制度を導入し、昨年12月に実施。それに基づき、個別面談を行い、各職員が課題と目標を明らかにし、向上心を持って働けるしくみを築いている。職員の資格取得や意欲に生かされるよう、外部の研修や内部勉強会に、積極的に参加できるよう勤務シフトを考慮している。	○	職員の努力や実績を、正當に評価し、向上心をもって働ける、職場環境が整うようにしていきたい。
安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○ 初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前から、本人の考えや趣味趣向など、本人の言葉を大切にし、傾聴することに努めている。可能であれば家を訪ね、本人の話しやすい環境で話を聞くようにしている。本人の不安や混乱も考え、徐々に環境に慣れていくように配慮している。まず、「聴く」ということを大事にしている。	○	現在、ショートステイの実施が可能であり、通所介護の導入も、検討段階に入っている。様々な形態の利用から、馴染んで頂き、不安を解消して、信頼関係を築いていきたい。
24	○ 初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族からも話を聞く機会を設け、本人の思いと家族の思いの違いを知り、本音をくみ取るようにしている。聞く姿勢を一番に大事にし、信頼関係の構築に努めている。	○	複数回の面談の機会をもち、本人に関わる、複数の家族から話を聞くなど、幅広く意向を汲んでいく、努力を続けていきたい。
25	○ 初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	同法人内の各施設の紹介や、相談の橋渡しをしている。また、在宅介護支援センターと協力して、その時の状況に応じた、サービス情報を提供したり、近隣のグループホームに連絡を取り、紹介をしている。場合により、ショートステイとして、受け入れる体制も整えている。	○	長野圏域のグループホームは、ネット化されている。今後、須高地区の中で、困難を抱えている方の、情報を共有していくことが必要だと考えている。通所と、ショートステイの事業展開により、緊急時の体制を、整えられないか検討していく。複合施設である利点を活かし、調整を図っていく。
26	○ 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	在宅からの利用者には、昼間だけの利用からでも可能なことを伝えて、本人も家族も不安を軽減しながら、馴染んでいった事例もあった。同法人内のケアハウスからの入居者には、日頃からお茶を飲みに来たり、行事参加などの交流により、馴染みの関係づくりをしている。入居に際しても、ケアハウスの居室をしばらく残し、本人の様子を見ながら対応するようにしている。	○	現在、ショートステイが可能となっており、通所介護の導入も検討している。日頃から、様々な形で利用していただき、次第になじんでいけるような、取り組みを行ってきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	介護する側、される側を作らないということを、日頃からスタッフ間で確認をしている。一緒に生活する仲間、ということを感じ、信頼関係が構築できるよう意識している。また、本人の力が発揮できる場面を、職員は意識して作りだしている。	○	高齢化、重度化が進んでいるが、サービスを提供する側、される側という関係に陥らないよう、心がけていきたい。
28	○ 本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	情報や思いを共有し、連携することで、ともに本人を支援していく、という関係が築けてきている。ケアプランの中で、家族に担って頂く役割を、できるだけ具体的に、盛り込むようにしている。	○	家族と同じ視線で、一緒に利用者を支援して行きたい、と考えている。家族と職員の思い、利用者の現状を共有するため、家族と語り合い、今後も協力体制をとっていきたい。
29	○ 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	職員は、家族関係を理解し、それぞれの思いを受け止め、良き橋渡しになるように努めている。「家族にしかできないこと」を家族に理解して頂き、面会や外泊を勧めたり、受診の付き添いの協力や、行事への参加を促し、関係が希薄にならないよう心掛けている。	○	家族関係に配慮しつつ、より家族の役割を、考えて頂く機会を増やし、関係を深めて頂けるよう、ホームの役割を考えていきたい。
30	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	毎年行っていた自宅近くの、お地藏さんのお祭りに出掛けたり、利用者の同級生に、気軽に面会に来て頂くよう呼びかけたり、日常会話の中で、親しい方の話題を出したり等、それまでの関係が、できるだけ継続されるよう、家族にも理解と協力を得ながら行っている。	○	高齢化、重度化により、継続が困難になってきているが、関係が途切れないよう、支援していきたい。
31	○ 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員は、利用者間の関係を情報共有し、必要以上の介入は避け、傍らで程よい距離から見守りつつも、時として働きかけすることで、孤立を防ぎ、利用者間のバランスを保ち、個々の持ち味を引き出していけるよう、支援している。	○	認知症の状態の違いにより、孤立する利用者がないように配慮している。お互い、助け合って暮らしていけるようにと考え、心がけている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
32	○ 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	死亡退所した利用者の家族から、感謝の手紙が送られてきたり、逆に、施設の月間通信を送付したりというやり取りがある。	○	今後は、ほかの利用者家族とも、継続的なお付き合いが、できるようにしていきたい。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の関わりの中で、会話や表情などを通して、また、利用者に問いかけることで、意向把握に努めている。会話が困難な利用者の場合は、快・不快の表現をよく観て、思いの把握に努めている。	○	本人の発する言葉を大切にし、より本人の思いや意向を、把握し実現していけるような仕組みを作り、積極的な取り組みを行っていきたい。
34	○ これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所に伴う面談の際や、または入所後の会話の中で、利用者や家族から、生活歴等について聞いたお話を、記録に残し、職員間で情報を共有し、支援につなげている。	○	入居後、日々の関わりの中から掴んだ情報が、共有され、ケアに反映されるような、仕組みを再検討したい。
35	○ 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	職員の気づきや記録等を通して、複数の職員から観た、利用者の姿を情報共有し、多角的な把握に努めている。	○	入居してから、これまでの状況の変化が分かり、これからの生活支援に活かせる、仕組みづくりを作っていきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○ チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式による、ケアマネジメントを取り入れて、本人の意向を汲み取る努力をしている。本人の言葉を大切に、その中にこめられた思いを探っている。チームでカンファレンスを行い、様々な視点から検討を重ねている。	○	プランのためのプランにならないよう、日々の介護の中での気づきを大切に、それが反映できるような、プラン作りの過程を現在考えている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状況が変われば、見直し時期に関係なく、ケアプランを作成し直している。定期では、3ヶ月に1回の評価と見直しを行い、6ヶ月で全面的な改定を行っている。	○	日々の介護と、ケアプランを連動させていくような記録方法や、状況に応じて、きめ細かくプランを見直していくような、ケアマネジメントを検討している。
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子、特に利用者が発する言葉や、血圧などの客観的な健康状態を、職員は、利用者ごと個別に記録し、その情報を共有している。特に変化のあった事項については、カンファレンスを行い、プランの立案につなげている。	○	今後も工夫を重ね、状況把握と共有に、努めていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	看護師の勤務による、医療連携体制を整え、ターミナルケアも実践している。地域に向けた多機能化を目指しており、昨年度から、ショートステイの機能を追加した。現在、ケアハウス利用者を受け入れ、通所に向けたモデルも実践しており、通所機能も付加した形で、地域の認知症介護の一翼を担いたいと考えている。複合施設である利点も、積極的に活用していきたい。	○	ニーズに応じた、多機能性を生かせるよう、フォーマル・インフォーマルな支援の体制を、考えていきたい。型にとらわれることなく、柔軟な対応ができるようにしていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	防災訓練への参加、ボランティアによる催しやお手伝い、地域の保育園、小中高生との交流などを行って頂いている。	○	本人の意向や必要性をに応じて、必要な地域資源を、活かせるよう考えていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	福祉用具の利用、リハビリの方法、鍼灸マッサージの利用等の相談している。実際に事業者サービスを、受けている利用者もいる。	○	どのサービスが、利用者にとって、生活に活用できるか、広く検討していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
42	○ 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在、具体的に協働している事はないが、センター職員には、運営推進会議に出席をして頂いている。	○	成年後見制度の利用や、地域ネットワーク作りに関して、協働していけたらと考えている。運営推進会議での関係を基盤に、連携を図っていきたい。
43	○ かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、本人と家族が選択しているが、協力医(内科)を、かかりつけ医とする利用者が殆どである。看護師等職員とかかりつけ医は、必要な時、FaxやTelで連絡を取り合い、適切な対応に努めている。定期的診察の他、病院受診などの対応もかかりつけ医と相談の上、行っている。	○	入居までの認知症状を診てきた、医療機関との連携を図っていくメリットを、家族に承知していただき、家族の協力をお願いしていく。
44	○ 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	対応に苦慮していた利用者を、家族の付き添いが不可欠だったため、職員が付き添い心療内科を受診し、現在も処方された内服薬を服用している。今後も、必要に応じて専門機関につないでいくようにしたい。	○	専門医との、良い関係を築いていきたい。
45	○ 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	常勤の看護職員を、1名以上確保することで、医療連携体制を整えている。日常の健康管理、服薬の管理、医療機関との連絡、非常時の体制をとっている。また、複合施設の利点を活かし、バックアップしてもらえるような体制をとっている。	○	今後も、この体制を維持し、スタッフの知識、技術、判断力の向上につなげていきたい。利用者が安心して生活できる、医療支援体制を整えていきたい。
46	○ 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院となる場合、多くは協力医療機関である須坂病院に入院している。その窓口である、地域医療連携室との連携を密にしている。情報を交換し合うことで、利用者の状態を把握し、入院中もまた、退院後においても、適切な支援につなげている。		
47	○ 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携体制をとるに当たり、ターミナルに関する指針を作成し、新規に入居する利用者家族に対し、契約時に説明を行っている。その状況になった時は、改めて話し合いの機会を設け、ケアプランを作成し方針を確認している。家族の意向は、変わることがあることを考え、その都度話し合いの機会をもつよう努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48	○ 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人や家族の、意向を踏まえて対応していくことを、ターミナルに関する指針としている。関係者が、出来る事出来ない事を明確にし、家族も職員も納得して、安心した終末期を送れるよう話し合っている。それに基づいた、ケアプランを作成し、それぞれの役割を明確にしている。また、看護職員が中心となって、知識・技術・判断力を身につけらるよう、勉強会を開いている。		
49	○ 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	それまでのケアが継続されるよう、転居先に、基本情報や生活の様子、健康状態などの情報を提供している。	○	継続的な支援が、出来るようにしていきたい。
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重				
50	○ プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人を大切にすることを、理念においても謳っており、プライバシーを守ることについての、意識向上を図っている。日常的にチェック、確認や改善を行っている。	○	勉強会で、このテーマを取り上げ、知識として理解するだけでなく、常に念頭において、ケアできるようにしていきたい。
51	○ 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者の日々の様子をよく観て、時には問いかけ、傾聴するということを大切にしている。先回りせず、相手の気持ちや意思の表出をゆっくり待ったり、促したりして、自身が納得できるよう努めている。	○	認知症介護の、基本のひとつだと考えているので、よりいっそうの、質の向上を目指したい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	○ 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、業務を優先せず、利用者の、その日の状態に合った支援している。	○	一人ひとりのペースや、その人らしい暮らしを、職員は理解し、押し付けの介護でなく、個別の対応を心がけていきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○ 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	バザーで、利用者が選んだ洋服を購入したり、外出の際は、おしゃれな服装にと声掛け等をしている。また、共用の化粧品だが口紅をつける等も、利用者が希望すればしている。白髪染めを希望する利用者には、家族の協力を得て、美容室に行っている。	○	日々の身だしなみを大切に、おしゃれをしたい気持ちを尊重し、実現できるよう出来る限り、支援していきたい。
54	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	もやしのひげ取りや、ジャガイモ等の皮むき等、食事に使う野菜の下ごしらえから配膳、下膳、食器洗い等の一連の作業を、職員と一緒にしている。また、食事中に懐かしの歌謡曲を流したり、会話をしたりと、楽しいひと時となるように努めている。	○	食事は、利用者にとって、最大の楽しみであり、本人の力が発揮される場所なので、職員と一緒に参加できる、食事場面を設定していきたいと考えている。おいしい、楽しいと感じてもらえる、支援を今後も続けていきたい。
55	○ 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者が希望したり、家族から差し入れられた、お菓子やあめ、牛乳などの飲み物などは、状況等に合わせて、召し上がって頂いている。現在、お酒やたばこを、希望する利用者はいない。	○	危険のないよう、配慮しながら、本人の楽しみを、継続して支援していきたい。
56	○ 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄のパターンや、利用者が、“その時”に発するサインを把握し、トイレでの排泄が、可能となるよう支援している。	○	おむつ使用の方でも、心地よく快適に使用していただけるよう、カンファレンスにおいて、検討を重ね、試行錯誤をしている。こうした取り組みは、今後も続けていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回以上の入浴を基本にしている。希望すれば、それ以上に、入浴をして頂いている。入浴剤を使用し、香りを楽しんだり、職員とのコミュニケーションの場にもなっている。時間帯は、現在日中に限られている。	○	利用者の、楽しみの一つでもあるので、満足感のある入浴の時間を、提供していきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	体調等をみて、休息や午睡を促している。それ以外の時は、できるだけ離床し、活動を促し、適度な疲労感を得ることで、安眠につながるように心がけている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々の生活の中で、一人ひとりが出来ることを見出し、役割を持ていただくことで、それを自信や活力につなげる取り組みを行っている。生活歴の中から、可能なことをさりげなく働きかけ、出来たことに対して、一緒に喜んだり、お手伝いの後には、感謝の言葉を伝えている。	○	満足感や自信につながるよう、支援していきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホテルに泊まりに来ている、と思っている利用者が、職員にチップをあげたいと思い、家族の理解も得て、現金を所持している。しかし、こういった方はまれで、日常生活において、お金を所持したり、利用したりする場面はほとんどない。	○	外出の際に、お小遣いで買い物ができるように、社会とのつながりが持てるような、支援をしていきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	「散歩したい。」という利用者には、職員が付き添い、他利用者も誘って一緒に出掛けたり、庭に出て景色を楽しみたい利用者には、テラスにイスを用意し、ゆっくり眺められるようにしている。また、菜園の野菜を収穫したり、草取りを職員とともにやる姿も見られる。		

グリーンクリスタル クリスタルTWO

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
62	○ 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご家族の協力を得て、「白髪を染めたい。」という利用者は美容室に行ったり、定期的に自宅に、外泊する利用者もいる。施設では、年間行事計画の中で、ご家族も参加し、お花見や美術館めぐり、外食等を実施し楽しんでいる。		
63	○ 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたいと、要望のある利用者に対しては、家族の負担がない範囲で、電話を掛ける等の支援している。年末には、家族に宛てた、年賀状を書いている。		
64	○ 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間の設定はなく、いつでも受け入れている。宿泊も可能である。飲み物をお出しし、ゆっくり過ごしていただけるようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○ 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わないということを、職員全員で確認しあっている。勉強会のテーマとしても、取り上げ学んでいる。直接的に身体を自由を奪うだけでなく、施設や、本人の意思を無視した誘導や、行動制限なども身体拘束となると理解して取り組んでいる。	○	知識として理解するだけでなく、常に念頭において、ケアするようにしたい。
	○ 鍵をかけないケアの実践			

グリーンクリスタル クリスタルTWO

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室は、昼夜ともに鍵は掛けていない。玄関やほかの出入り口は、夜間以外に鍵は掛けていない。日中は、開閉センサーを使用し対応している。		

グリーンクリスタル クリスタルTWO

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
67	○ 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員間の情報交換を密にし、日中午睡などで、ホールにいない場合は訪室し、夜間は巡視を行い、所在や様子の確認を行っている。また、転倒の危険がある利用者は、居室内に、センサーを設置し、チャイムが鳴ったら訪室している。		
68	○ 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の能力に応じ、使用・管理が可能な場合は、居室内に置いている(裁縫セット・あめ等)。洗剤やハイターなどは、施錠できる場所で保管。薬は、事務室の施錠したキャビネット内で保管している。		
69	○ 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故が発生した際は、インシデントレポートを作成し、カンファレンスを開き、利用者一人ひとりの行動パターンや状況の変化を把握・確認し、原因や対応策を検討し、再発防止に繋げている。離設や消防の対応マニュアルを作成し、緊急時に備えている。	○	知識として理解するだけでなく、常に、実践に活かせるようにしたい。
70	○ 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	窒息や転倒等の急変時の対応や、AEDの使用方法も含む救急法は、施設内の勉強会や法人内の研修の際に実施している。急変時の体制を整え、法人内の応援体制もある。	○	今後も、勉強会でこのテーマを、継続して取り上げ、知識として理解するだけでなく、常に念頭において、実践できるようにしたい。
71	○ 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけをしている	法人内共通の災害対策マニュアルがあり、事務所内の見やすい場所に掲げている。利用者も含め、地域の消防団も参加する、防災訓練も実施している。		
72	○ リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	本人の状況の変化は、その都度随時、ご家族に報告している。認知症に伴うリスクは、入居時や面会時、家族会などの機会に説明し、理解を得られるよう努めている。転倒等のリスクが考えられる利用者には、寄り添い見守る介護を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェックをはじめ、顔貌・食欲・活気などを観察・記録し、異常の早期発見に努めている。介護職員・看護師・医師は、情報の共有し、速やかな対応を心掛けている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	健康管理票によって、内服薬等が一覧でき、処方の変更された場合は、副作用等について、看護師から説明を受け、また介護日誌見て確認をしている。変化が生じた場合は、職員間で情報を共有し、看護師に報告している。服薬は、状態に合わせて支援しており、必ず確認を行っている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	日頃から、食事には野菜を多く取り入れ、繊維質が摂れる心掛けている。ヨーグルトや牛乳を宅配で定期購入して摂取したり、水分摂取を促している。散歩等身体を動かす機会を設けたり、便秘の際には、腹部のマッサージやオシシュレットを使用し、刺激を与えて排便を促している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、ADLに合わせ、声かけや介助で、義歯の汚れを落としたり、うがいをして頂いている。その際、口腔内の状態把握にも努めている。特に夜間は、義歯をお預かりして、入れ歯洗浄剤で洗浄している。利用者の中には、時々義歯をはずすことを拒否し、口腔清掃ができない時がある。	○	日頃の、口腔ケアに対する問題意識から、勉強会を開き、カンファレンスにおいて、独自のマニュアルを、作成した経緯がある。こうした、職員の問題意識を大切にして、よりよいケアにつなげていきたい。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	状態に合わせて、量を配慮したり、野菜を多く取り入れるなど、栄養のバランスを考えた、食事を提供をしている。コーヒブレイクの時間を作るなど、水分摂取の機会を増やすとともに、いつでも水分を摂取して頂けるようにポットを用意している。声かけを行い水分摂取を促すとともに、水分量のチェックも行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	○ 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	法人全体のマニュアルのほかに、カンファレンスにおいて、日常の取り組みを再検討し、独自のマニュアルを作成、実行し、予防・対策に努めている。	○	職員の意識向上を図るとともに、全職員がマニュアルの実行を徹底し、感染症予防につなげたい。
79	○ 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	独自のマニュアルを作成し、実行している。調理を担当した者が、その都度調理器具等を消毒し、食材も使用する際や、食品を冷蔵庫に入れる際に、消費(賞味)期限が切れているものは処分している。	○	職員の意識向上を図るとともに、全職員がマニュアルの実行を徹底し、食中毒の予防につなげたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	○ 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	外玄関には、植え込み以外にも、草花を植えたプランターを配置し、明るい雰囲気にも努めている。靴の履き替えが便利のように、内玄関にベンチを設置している。		
81	○ 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	懐かしい歌謡曲等を流し、観葉植物や花を飾り、くつろげる空間作りに努めている。壁面に、行事や外出時の写真を飾り、利用者の話題づくりに一役買っている。	○	利用者と一緒に、居心地の良い空間を、作り上げていきたい。
82	○ 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下やテラスにも、ソファを置いている。廊下のソファでは、一人静かに物思いにふけったり、気の合う利用者同士で、会話を楽しんだりしている。テラスのソファでは、一人や、利用者同士で、日向ぼっこや夕涼みをして過ごしている。	○	空間を有効に活用し、今後も、こうした空間の利用を、大切にしていきたい。

グリーンクリスタル クリスタルTWO

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際し、使い慣れた家具類や、好みの品を用意して頂くよう、お話ししている。勉強机やソファを置いたり、家族と写した写真や、お花を飾ったりと、思い思いにくつろげるように工夫されている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気は、居室の換気扇を使用するとともに、冬季でも感染予防のため、お茶の時間等不在の時間を利用して、窓を開けている。温度調節は、特に夏季、冷房によって体調を崩す利用者もいるので、出来るだけ自然の空気を取り入れたり、使用するときは、風向等に配慮している。	○	今後も、きめ細かな対応をしていきたい。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は、バリアフリーで、各所に手すりを設置している。起き・立ち上がりが困難な利用者にはベット用手すりを設置、入浴時には、バスボード・滑り止めマット等を使用し、歩行が不安定な方はシルバーカーを使用している。ADLや日々の体調を考慮し、安全に過ごせるよう努めている。	○	より安全で自立した生活が送れるよう、福祉用具等を、積極的に活用していきたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	「服がない。ここ(事務室)にあるんじゃない?」という利用者には、「ああ、やっぱりないね。」というまで職員と一緒に探し、納得いくまで付き合う対応をしている。職員は利用者の訴えや、状態の把握に努め、カンファレンスを行い、職員が統一した対応をして、更なる不安や混乱を、来たさないようにしている。	○	利用者の、混乱の軽減が図られ、安心して過ごせるように、支援していきたい。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	テラス前に、職員が開墾した花壇や菜園に、季節ごとの草花や野菜を植え、野菜の収穫を楽しんでいる。職員が草取りをしていると、自ら一緒に草取りをする姿も見られる。テラスでは、日光浴をしながら歌を歌ったり、夕涼みしたりとくつろぎの場になっている。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目			
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所に○をつけること)	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

グリーンクリスタル クリスタルTWO

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所に○をつけること)	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている
		○	少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	ほぼ全ての家族等が
			家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

開設からまもなく7年を迎えるグループホームです。「笑顔の輪」「共に暮らす幸せ」「心安らかに暮らせる日々」を目指すことを理念に掲げ『生きる・活きる』ことを支援していきたいと考えています。ご利用者の入れ替わりも随分あり、何人もの方々とお別れも経験してきました。一つひとつの経験を重ねながら、戸惑や悩みや喜びや楽しみを感じながら今があります。「認知症の方々の気持ち」を常に考えながら、ご利用者を第一に考えられるグループホームでありたいと思っています。そのためには、ご利用者に、又はスタッフ同士で「耳を傾けること・話し合うことを大切にしたい」と考えています。また、グループホームの多機能化も検討し、地域に暮らす認知症の方々のニーズに対応できるグループホームでありたいと思っています。